業務委託仕様書

１　業務委託名　令和５年度中山間地域における資源を活用したワーケーション導入に関する効果と課題の検討業務委託

２　業務目的

本業務では、中山間地域での過疎化・高齢化による農村の活力低下が進むなか、地域農業の継続を図るため、地域資源を活用したワーケーションの導入に関する課題や効果の抽出を行うことで、ワーケーション導入が担い手不足の解消など地域課題の解決につながる可能性を検証することを目的としている。

３　委託期間

契約締結日の翌日 ～ 令和６年３月３１日

４　業務内容

（１）作業内容

委託業者は、日本農業遺産の認定を受けた「聖地 高野山と有田川上流域を結ぶ持続的農林業システム」の内容を十分理解した上で現地調査を行い、地域資源を活用した農業の支援作業を検討するとともに、ワーケーターの意向を調査、ワーケーション導入の課題を抽出し、対応策を検討・提案する。（農業遺産システムの概要は別紙のとおり）

詳細は下表のとおりとする。ただし、業務目的達成のために効果的な取組があれば、独自の取組として行うことは妨げない。

項目	内容
現地調査・農業の支援作業の検討	日本農業遺産認定地域（高野・花園・清水地域）を対象に現地調査、実態把握を行い、地域が抱える課題を整理し、地域資源を活用した支援作業を検討する。
ワーケーターの意向調査	アンケート調査やモニターによる現地訪問などにより、実際活動している都市住民のワーケーターの意向を調査し、現地でのワーケーション導入の可能性を検討するとともに課題を抽出する。
検討業務	現地調査や意向調査により抽出された課題の整理と、対応策について検討・整理し、業務成果をとりまとめ、報告書を作成する。
打合せ・協議	和歌山県と業務内容、進捗状況、課題等に係る打合せ、業務内容変更等に係る協議を３回行う

（２）ワーケーションを検討する地域

本業務により検討するワーケーションの活動地域は、日本農業遺産「聖地 高野山と有田川上流域を結ぶ持続的農林業システム」の認定地域である、高野・花園・清水地域（和歌山県伊都郡高野町（有田川流域）・かつらぎ町旧花園村・有田郡有田川町旧清水町）とする。

５　その他

本仕様書に定めのない内容事項が生じた場合、県と協議し決定すること。

別紙

概要情報

農林水産業システムの名称

聖地 高野山と有田川上流域を結ぶ持続的農林業システム

日本農業遺産の認定年月日：令和３年２月 19 日

申請団体

・団体名：高野山・有田川流域世界農業遺産推進協議会

・組織構成

かつらぎ町、高野町、有田川町、紀北川上農業協同組合、ありだ農業協同組合、しみず山椒の里活性化協議会、高野槙出荷組合、かつらぎ町森林組合、高野山寺領森林組合、森林組合こうや、和歌山森林管理署、清水森林組合、かつらぎ町商工会、有田川町商工会、かつらぎ町観光協会、高野町観光協会、有田川町観光協会、花園郷土古典芸能保存会、かつらぎ町文化財専門審議会、奥高野をなんとかしよう会、総本山金剛峯寺、高野山大学、体験交流工房わらし、有田川町清水地区区長会、有田川町ふるさと開発公社、和歌山県果樹試験場、和歌山県林業試験場、和歌山県立博物館、和歌山県立自然博物館、和歌山県

認定地域の位置

・申請地域名：和歌山県　高野・花園・清水地域

（高野町・かつらぎ町（旧花園）・有田川町（旧清水））

・申請地域の位置に関する説明

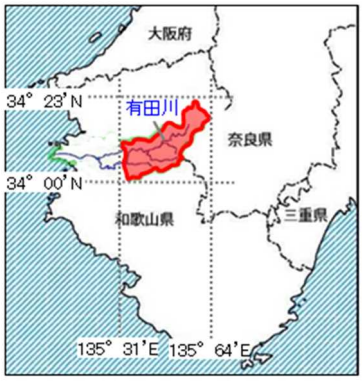
和歌山県中北部に位置

楊柳山（高野地域）に源を発する有田川の上流域

（上流から高野、花園、清水）

・地理座標（緯度経度）

東経 135 度 31 分～135 度 64 分、北緯 34 度 00 分～34 度 23 分



主要都市から認定地域までのアクセス

東京羽田空港から関西国際空港経由で 2 時間 50 分、成田空港からは 3 時間 10 分

面積　28.716k ㎡　（①＋②＋③）

①概ね 100 年以上、林業により寺院・集落を支えてきた人工林：27.1 ｋ㎡

（高野六木の森・長伐期施業林・集落の生計を支える林業が営まれてきた人工林）

②仏花 コウヤマキ 栽培林：0.996 ｋ㎡

③ぶどう山椒 栽培園：0.62ｋ㎡

地形的特徴

有田川が形成した急峻な山間地。

有田川の源が存在する楊柳山の標高は 1,008.5m。

申請地域内の最下流の標高は約 100m。

上流域は、標高 800～1,000m 級の山々に囲まれる。

中流域は、有田川が蛇行し、流路に沿って河岸段丘が形成。

地質は、おもに砂岩・泥岩の互層からなり、緑色片岩及び黒色片岩が帯状に分布。

気候区分

申請地域内では標高差(高野山（集落）：標高 800～850m、清水地域（集落）230～350m)に応じた気温差が存在。

高野地域の年平均気温は 10℃前後であり、有田川河口部と比較して約 6℃程度低く、冬期には最低気温が－10℃前後となる。

清水地域の年平均気温は 14℃程度、年平均降水量は約 2,000m となっており、日本の年平均降水量をやや上回る。

地　点※1	年平均気温※2	年平均降水量※2
高野山	10.9 ℃	1,852 mm
有田川町 清水	13.7 ℃	1,926 mm

※１：気象庁 観測地点
※２：1981～2010 年の平均値

人口（うち受益者）

6,784 人（2,044 人）

主な生計源

農業、林業、製材業、寺院、観光業、宿泊業（宿坊）、農産物卸売業

農林業システムの概要情報

本システムは、物資調達が困難な「山上の聖地 高野山」において、100を超える木造寺院を維持してきた森林育成の仕組みである「高野六木制度」と、平地の少なさを乗り越え、高野山とともに発展してきた花園地域における「傾斜地を利用した仏花栽培」、清水地域における「棚田の畦畔の農地利用による多様な植物の育成・栽培」を核とした農林業システムである。

約1200年にわたり、度重なる火災に見舞われてきた高野山では、建築用材として有用性の高い６種の針葉樹（スギ、ヒノキ、コウヤマキ、モミ、ツガ、アカマツ）について、寺院の建築・修繕以外での伐採を禁じるとともに、その伐採にあたっては必要となる樹のみを択伐し、天然下種更新や苗木の補植により森林を更新する「高野六木制度」を生み出すことで、用材の永続的な自給を可能にした。

また、高野六木制度は、森林育成を統括する「総本山金剛峯寺山林部」と、山林部の方針に基づく施業を行う「高野山寺領森林組合」からなる組織体制により、安定的に継承されている。

有田川と参詣道「有田道」により高野山と繋がる花園・清水地域の人々は、農業・林業（用材生産）を主業としつつ、高野山の需要にも応える多様な農林産物を傾斜地や棚田の畦畔で育成・栽培することで、平地の少なさを乗り越え、生活を発展させてきた。

花園地域は、傾斜地を利用してシキミ、コウヤマキなどの仏花を栽培し、高野山に供給することで集落を発展させており、その歴史は地名の由来となっている。

清水地域は、棚田の畦畔を農地として利用し、多様な植物を育成・栽培することで生計を安定させてきた。

現在、清水地域の山椒生産量は日本一を誇るが、その起源は高野山の需要（漢方薬・高野山料理）に支えられた「畦畔での栽培」であり、畦畔で育成・栽培する多様な植物の中から、時代のニーズに応える品目の栽培を拡大し、集落を発展させてきた。

なお、当地域はかつての高野山の領地であり、豊作を高野山に祈念する「御田」(おんだ)が生まれるなど、人々は高野山への信仰で強く結ばれている。

このように、本システムは「宗教都市 高野山」の維持のみならず、高野山に続く花園・清水地域も含めた有田川上流域全体の暮らしを発展させてきた、独自の農林業システムである。

世界有数の宗教都市であり、日本人の魂のふるさとである高野山の発展は、本システムにより支えられており、持続可能な森林の経営(SDGs Goal15)、陸域生態系の持続可能な利用の促進(SDGs Goal15)及び持続可能な農業(SDGs Goal2)に資する本システムは、山間地域における持続可能な農林業の達成に貢献するものである。

聖地 高野山と有田川上流域を結ぶ持続的農林業システム

山上の聖地「高野山」を支えるとともに、
平地の少ない有田川上流域の暮らしを発展させた持続的農林業システム

高野地域

落雷による度重なる火災に見舞われた高野山

→高野六木制度の確立
- 本来の植生を利用し、６種の針葉樹を選択的に育成
- 寺院の建築・修繕以外での伐採を禁止
- 必要となる樹のみを択伐
- 苗木の植栽、天然下種更新により森林を更新
- 金剛峯寺山林部＋高野山寺領森林組合による組織体制

⇩

寺院の建築・修繕用材の永続的自給を可能に

高野六木の森・長伐期施業林
- 有田川の水源を涵養
- 高い農業生物多様性
- 信仰環境

高　野　山

- 山上の宗教都市としての大きな需要
- 心の拠りどころ

花園地域

高野山の需要に支えられた
傾斜地での仏花栽培

豊作を高野山に祈念・感謝

里　山

農業＋林業による複合経営

清水地域

畦畔の農地利用による多様な植物の育成・栽培
⇨高野山など周辺地域からの多様な需要への対応を可能に

山　椒
- 畦畔や耕地周辺での栽培が起源
- 古くより 高野山の需要（漢方薬・香辛料）に応える
- 江戸時代には「ぶどう山椒」を発見
- 現在では、日本一の生産量を誇る産地を形成

→ニーズに応える栽培拡大